

## 〈堀江繁太郎〉を知っていますか？

堀江繁太郎は、別号を霞泉(かせん)といい、明治6年6月21日伊達郡東湯野村(現福島市飯坂町東湯野)に生まれました。明治40年12月から、県立福島中学(現県立福島高校)の教員となり美術教育を担当していました。一方、郷土史家、日本画家としても活躍し、県史跡名勝調査委員として文化財保護にも貢献した人物です。

堀江は、旅先の風景や、家族の日常、自らが勤務する福島中学の光景など、たくさんの作品を残しました。ここでは、当館が所蔵する堀江繁太郎に関連する資料で、折本に描かれたものと、画帳やスケッチブックに描かれたものの一部を紹介します。

ご覧になりたい場合は貸出・登録カウンターの職員にお申し付けください。

### 「堀江繁太郎展」(2014年9月5日～9月27日)での主な展示作品

タイトル	制作年	当館請求記号
景色筆写	[1891]	L721/H2/75
堀江繁太郎が18歳のときに描いた画帳です。表紙の裏には「匹夫而為百世師 一言而為天下法」という文言が書かれており、これは庶民の出でも百代先まで人々に仰ぎ見られる人物になるという若き日の堀江の決意を記したものです。		
実地描写白石峨々間景色集	[1892]	L721/H2/74
墨一色で描かれた画帳です。温泉街や周囲の山々の様子が描かれています。		
[写生帳]	[1902-1906]	L721/H2/82
東京に絵の勉強に行った際に描かれた画帳です。		
[明治三十九年]号外売 他	[1906]	L721/H2/15
県内の風景や動物などのスケッチ集です。		
(明治四十年)路上所見人物 他	[1907]	L721/H2/13
鳥類や草花のスケッチが多く描かれています。写生をする学生を描いたページもあります。		
大正六年	[1917]	L721/H2/1
京都駅から見た町並みや清水寺など、京都の風景が描かれています。		
新潟県	[1924]	L721/H2/10
教員だった堀江が、松山高校へ研修に行く道中を描いたと思われる画帳です。		
聚芳帖	[1927]	L721/H2/38
展示会で飾られた絵を模写した折本です。帝銀事件で有名な平沢貞通(雅号・大暲)のテンペラ画を模写したページもあります。		
曾根田と鳥川と黒岩	[1933]	L721/H2/60
曾根田天神のお祭りの様子などが描かれている折本です。		
小袖曾我と羽衣と膏葉煉	[1935]	L721/H2/70
タイトルは能や狂言の演目ですが、折本後半には福島中学の水泳大会の様子が描かれています。		
芸能祭	[1941]	L721/H2/73
昭和16年に行われた県下推薦芸能祭の様子を描いた折本です。		
毎日漫画 第8編	1946	L721/H1/24
堀江繁太郎、最晩年の画帳です。闇市や投票所など、終戦直後の庶民の生活がよくわかります。		

## 当館が所蔵する堀江繁太郎関係資料(一部)

### 折本

傀儡師	[1916]	L721/H2/36
那がれやま	[1919]	L721/H2/35
矢立写生 茂庭の巻	[1932]	L721/H1/17
御駐駅之蹟・信夫橋工事・蓬莱岩	[1932]	L721/H1/21
昭和七年 米沢・万世・廣幡	[1932]	L721/H2/57
東京と桑折	[1933]	L721/H2/63
掛田文書・安達原・靈山神社・渡利出土土器 他	[1934]	L721/H1/11
岩峰寺の古塔と染子と太田輪の横穴群	[1934]	L721/H1/14
梁川 堰本 東京大森古墳 桑折大安寺 北千束斎藤家	[1934]	L721/H1/16
笹谷と清水と生蕃人と浜田と小塩江と	[1934]	L721/H1/19
善光寺・金谷川・黒沼神社・王老杉・古布石	[1935]	L721/H1/6
小塩江・母畑・川辺・蓬田・須賀川 他	[1935]	L721/H1/8
白水・上保原・川俣・二本松・黒塚	[1937]	L721/H1/3
穴原・鳥川・永井川・李平・金剛塔	[1937]	L721/H1/9
浜松 三保 政事博	[1937]	L721/H2/58
奉天・撫順・四平街	[1938]	L721/H2/40
鉄嶺・奉天・撫順	[1938]	L721/H2/54
猿跳・多賀城	[1940]	L721/H2/52
漫画と速写	[1940]	L721/H2/55
大野寺・津・室生寺・大湊	[1942]	L721/H2/53
比叡山・三井寺・鞍馬・貴船	[1942]	L721/H2/56
富美恵・田辺・香取・鹿島・笠間・山脇高女	[1943]	L721/H1/23
東山	[1944]	L721/H2/43
明治大帝御巡幸録編纂史料 昭和11年3, 4月	[出版年不明]	L721/H1/18
磯之貝	[出版年不明]	L721/H2/41

### 画帳・スケッチブック

[明治三十九年]芝霊廟 他	[1906]	L721/H2/20
(明治四十年)桑野村 他	[1907]	L721/H2/21
挿秧人物	[1908]	L721/H2/19
高湯温泉行	[1909]	L721/H2/3
馬琴下女	[1910]	L721/H2/11
大正四・五年	[1915-1916]	L721/H2/6
天王寺温泉	[1916・1918・1920]	L721/H2/16
吾妻登山	[1917]	L721/H2/12
大正七年	[1918]	L721/H2/24
靈山寺	[1923]	L721/H2/22
大正十四年	[1925]	L721/H2/8
浜田大仏	[1926]	L721/H2/7
高砂尉姥	[1927]	L721/H2/18
くさじし	[1931]	L721/H2/78
石川郡泉村 他	[1932]	L721/H2/9
昭和十三年	[1938]	L721/H2/4
矢立帖	[1938]	L721/H2/77
顔顔顔顔	[出版年不明]	L721/H2/14

注記 [ ]で記載されている部分は、当館で推定・補記したものです。

参考資料 『福島市の文化財 福島市文化財調査報告書第34集』(福島市教育委員会 1993)  
『新釈漢文大系 17 文章軌範(正篇)』(明治書院 1961)